

令和元年度 南区総合防災訓練について(実施報告)

■実施日: 令和元年年11月17日(日) 午前8時30分～午前11時30分

(指定避難所内訳) 11避難所

■想定: 水害

午前8時30分に南区全域に警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始発令

■訓練内容

(コミ協・自主防災会・避難所指名職員の主な訓練内容)

* 南区総合防災訓練同日に各地域で自主防災訓練を実施する地域も多く、区は避難所指名(担当)職員を派遣し、自主防災訓練の中で連携した訓練を実施

○情報伝達訓練、避難行動要支援者訓練、物資運搬訓練、避難所開設訓練

- ・災害時のコミュニティ協議会連絡体制に基づく情報伝達訓練(連絡体制の検証含む)
- ・避難所開設訓練(コミ協単位、白根地区は合同で各1か所を開設 計11ヶ所)
- ・災害対策本部と避難所との通信訓練(避難所開設及び避難者数の報告)等

※災害対策本部訓練として、関係各所との情報共有訓練や、被害を想定したシステム入力訓練を実施

開設避難所(地域)	参加者数	備考
新飯田地域生活センター(新飯田)	10	
茨曾根地域生活センター(茨曾根)	7	
庄瀬地域生活センター(庄瀬)	6	
小林小学校(小林)	460	自主防災訓練(区支援)登校日
臼井中学校(臼井)	116	自主防災訓練
大鷲小学校(大郷・鷲巻)	299	自主防災訓練(区支援)登校日
根岸小学校(根岸)	537	自主防災訓練登校日
大通小学校(大通)	322	自主防災訓練(区支援)
白根学習館(白根南部・中部)	501	自主防災訓練(区支援)
味方出張所ほか(味方)	589	自主防災訓練
月潟中学校(月潟)	565	自主防災訓練小・中学校登校日
合計	3,412	

※白根地区北部は、白根地区中部・南部の合同訓練を見学

〈訓練実施施設:参加者数〉

区分	参加者数	参加者	備考
避難所 (区内11ヶ所)	3,412	避難所指名職員、コミ協、自主防災会、市民、施設管理者(学校教員等含む)	避難所開設訓練(自主防災訓練も実施:小林、臼井、大郷・鷲巻、根岸、大通、白根地区南部(中部)、味方、月潟)
区役所関係	63	区役所職員、南消防署、南警察署	災害対策本部設置訓練、情報共有訓練、防災行政無線等運用訓練
その他	427	白根高校、小・中学校メール・FAXによる安否確認訓練	情報共有訓練、避難所開設訓練補助、小・中学校安否確認訓練
合計	3,902	前年比 23.3%増(739人増)	

* 総合防災訓練の参加者数の推移: H27(水害想定)1,148名、H28(地震想定)1,243名、H29(水害想定)1,855名、H30(地震想定)3,163名

※白根学習館、大鷲小学校にて、NPO法人コメリ災害対策センターより災害時に必要な物品(防災グッズ)の展示紹介を実施

※新飯田地区(7/7:440名)、茨曾根地区(10/20:308名)庄瀬地区(10/6:595名)は、別日程にて自主防災訓練を実施済

※大鷲小学校では、別日程にて児童の安否確認訓練を実施(11/14:72名)・・・参加者数には含めず

～アンケート結果(主なご意見等)～ ※今回のご意見等で回答が必要と思われるものについて、回答を記載させていただいております

〈避難所開設訓練・連絡体制の検証〉

○「避難者カード」に記入してもらった訓練を行ったが、記入間違いが多かった。記入方法ひとつとってもわかりにくいので、改善をした方がよい。(大通地区)

⇒「避難者カード」については、市統一の様式となっていますので、もっとわかりやすいように防災局へ改善提案したいと思います。

〈自主防災訓練関係・その他〉

○今回、中越防災安全推進機構の講師を派遣していただき、講演いただいたが、地域の実情に促した内容で、参加者は熱心に聞いていた(大通地区)

○荒天で参加者が減るのではと心配していたが、晴天に恵まれ計画人数の参加を得ることができた。小学生中心の訓練内容に少し物足りなさがあつたが、女性の参加者があつた(過去はほぼ男性)(大郷地区)

○開催時期としても、11月中旬は寒く、高齢者には厳しい。家族での参加者も少なかった。(大通地区)

⇒本年度で各地域への防災専門講師を派遣する支援が南区内を一巡したことから、総合防災訓練として統一日で実施しない方向です。各地域では、学校と連携するなど、地域全体での取り組みも多くなってきております。区も引き続き支援してまいりますので、各地域の自主防災活動を更に充実させていただきたいと思っております。

○ 午前8時30分、警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始の防災行政無線による発令を受けて、味方地区自主防災会の避難所開設訓練を実施。9ヶ所の避難所を開設、総勢589名の参加で、多々改善点はありましたが、有意義な訓練となりました。味方地区は、もっとも関心が高い中ノロ川の洪水避難訓練でした。(味方地区)

○ 今回の訓練は、南部防災会と合同で行った。訓練内容は、南部防災会に主導いただき、スムーズに行われたと思います。中部防災会においては、避難場所が白根学習館としたためか、参加者が南部に比べ少なかった。次回は、参加者が多く来てもらえるように、手段を考えなければと思った。(白根地区中部)

○ 防災訓練の開催案内が不十分だったのではないかと。大通コミ協での参加者は、約330名でしたが、全体数も少なく、且つ地域別での偏りが大きかった。又、今回は南区主催の観点からコミ協内での開催案内の確認がうすれていた。(自己反省) (大通地区)

○ 中越防災安全推進機構の講演時間が約2時間と長すぎた。途中退席者が多かった。もつと的を絞った内容で1時間が限界？(大通地区)

⇒今回の講演内容については、大通地区の自主防災会と講師を交えて、事前に打ち合わせを行い、より地域の方に関心を持ってもらおうと、各自治会から講師への質問の時間を設ける形で実施してもらいました。講演時間や内容については、今後の防災に関する講演やセミナーなどの参考にさせていただきます。

○ 避難所玄関(外からみてすぐわかる場所)に垂れ幕なり、簡易的な看板なり、ここが避難所だとわかるものを何か掲示するといいいのではないかと。(茨曾根地区)

⇒指定避難所の門扉付近には避難所標識を設置しておりますが、避難者が出入りする部分にも簡易的な「避難所出入口」などの標示を検討します。

○ 今後も各地域での訓練を充実した形で南区に指導いただき、南区全体の防災意識の向上につながるようお願いしたい。(庄瀬地区)

○ 地域生活センターに訪れた方へ、防災メールチラシ、配布説明用の避難者カード、ティッシュを渡し、防災啓発に努めた。地域の年配の方の中には、新飯田地区は、根岸や大通よりも標高が高いから水害の心配はないと言っている人もいるが、昨今の異常気象により多発する被害を見れば、それは何の根拠にもなりえない。信濃川と中ノロ川に挟まれた土地だからこそ、連日の豪雨で堤防が軟弱になり決壊しやすくなるだろうし、越水の恐れもある。水は高い所から低い所へ流れるにしる、サラサラと水だけが流れるわけではなく、木々や倒壊した家々を巻き込みながら濁流となることに注意が必要だと思う。(新飯田地区)

⇒最近の異常気象を踏まえ、災害が「いつ・どこで」起こるか分からないことから、更に防災啓発に努めていきたいと思います。

○ 今年度の訓練は重点地区となり、小林小学校のご協力をいただき、登校日としていただきました。結果、総勢460名の訓練参加者となり、ほぼ目標を達成することが出来ました。小林小学校との打合せ及び講演者の手配、打ち合わせにいただいた、区の方には大変お世話になりました。ありがとうございました。(小林地区)

○ 11月17日(日)月潟中学校体育館を会場に実施した。当日は、小中学校生徒の参加もあり、総勢565名の参加があった。内容は、避難訓練の他に毛布、もの干し竿を利用したタンカ作りやAEDの使い方、中学生による緊急時の紙コップ作りなどを体験した。3班に分かれて行ったが、室内ということもあり、マイクの音が反響して指導の内容が聞き取れないことへの不満が出された。今後訓練内容をもっと実際の状況に近い想定で、参加者が興味を持てる内容にする必要がある。例えば、ハザードマップを利用して自分の地域の状況を確認したり、備蓄の状況、防災グッズの紹介などで知識が取得できればよいと思う。(月潟地区)